

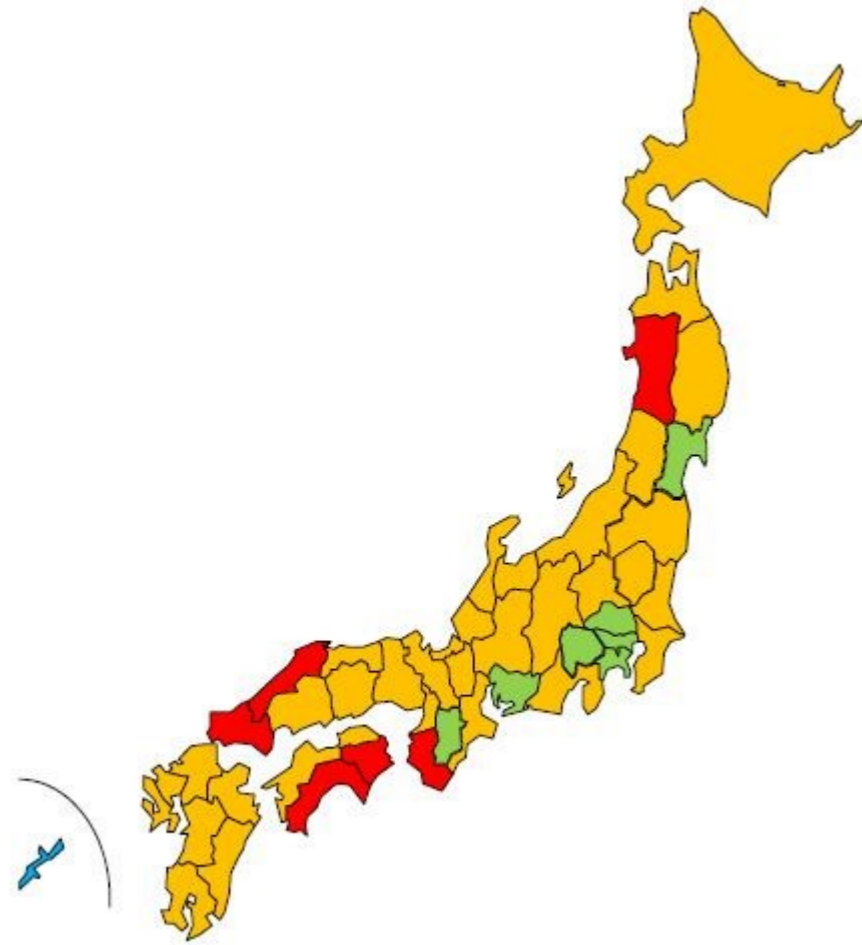
特集：独居高齢者に対する支援活動

- 02 図表で見る日本の高齢社会の実態
- 04 心温まる配食サービス ～岐阜県大垣市赤十字奉仕団興文分団～
- 06 「住みよい地域」をつくる一声ふれあい運動
-滋賀県支部の取り組み



高齢者に葉牡丹を届ける信楽町赤十字奉仕団（滋賀県）

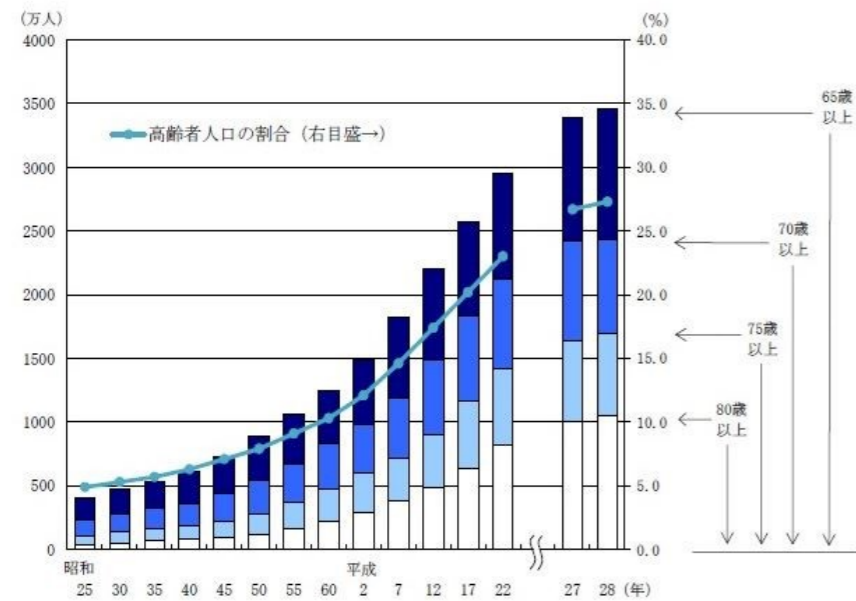
「高齢社会日本」と言われて久しい現代。すでに4人に一人が65歳以上であり、その傾向はますます深刻度を増すとされています。地域によっても高齢化の傾向が異なるため、ボランティア活動を行う際には各地域の傾向を把握したうえで、ニーズに即した形で活動を開示することが求められます。（出典：内閣府「平成28年版高齢社会白書」）



現在の日本の高齢化率は26.7%ですが、秋田県、和歌山県、島根県、山口県、徳島県の5県は高齢化率が30%以上になっています。一方、都市部やそのベッドタウンがある宮城県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、愛知県、奈良県などは、20%以上25%未満と一定の高齢化率で推移しています。出生率が全国トップの沖縄県は唯一高齢化率が20%未満となっています。



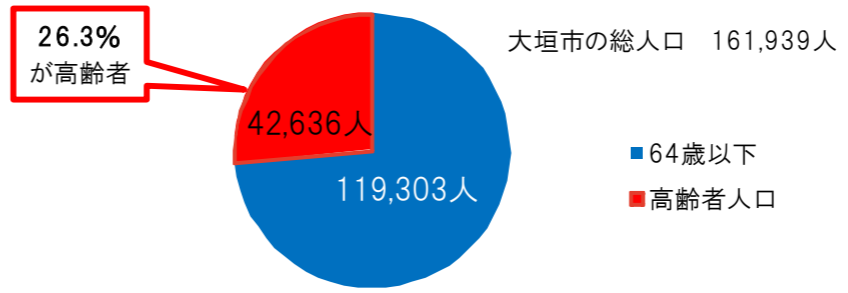
図1 高齢者人口及び割合の推移（昭和25年～平成28年）



平成28年3月31日現在、高齢者福祉向上のための活動でモデル奉仕団として指定されているのは、34団。今回、社会福祉協議会などと協働して単身世帯の高齢者に昼食を配付する活動に取り組んでいる岐阜県大垣市赤十字奉仕団興文分団と、一声ふれあい運動のモデル奉仕団として、平成28年度から指定されている滋賀県長浜市余呉赤十字奉仕団、甲賀市信楽町赤十字奉仕団を取材しました。

左の図は、高齢者人口数と割合の推移に関するグラフです。昭和25年は、65歳以上の高齢者は500万人を切っていましたが、現在は、3,461万人にものぼります（平成28年9月15日現在推計）。平均寿命も年を追うごとに伸び始め、現在、65歳以上の人口のうち、80歳以上が人口の10%に達しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、この割合は今後も上昇し続け、平成47年には33.4%になり、3人に一人が高齢者になると見込まれています。（出典：総務省統計局「統計ピックスNo.72 統計から見た我が国の高齢者（65歳以上）-「敬老の日になんで-」）

岐阜県 大垣市の高齢化率



岐阜県大垣市ホームページ(平成29年1月末現在)

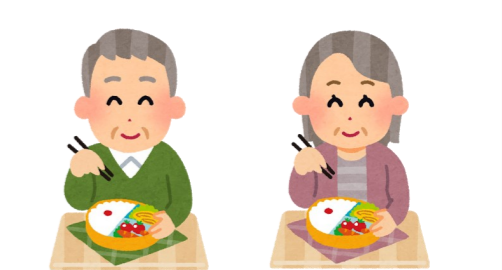
単身世帯高齢者のニーズで多いのが...

外出して買い物をしたり
食事の準備や
片付けをすることが不安...

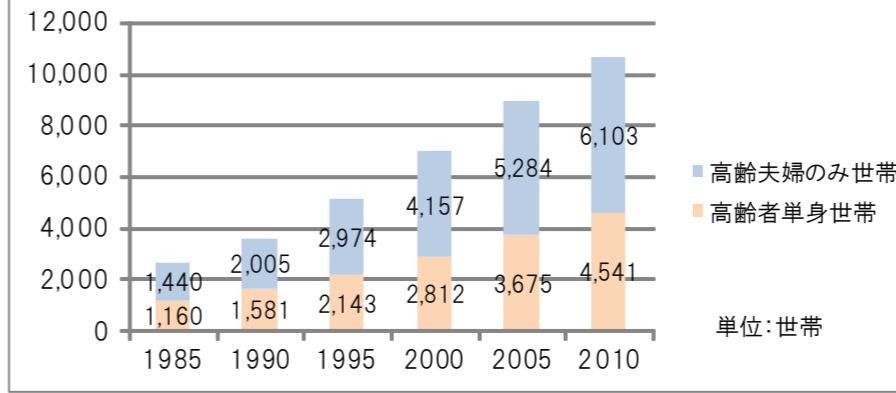


そこで、活躍しているのが...

赤十字奉仕団の配食サービス



高齢夫婦・高齢単身世帯の推移(大垣市)



出典：岐阜県環境生活部統計課「統計からみた大垣市の現状平成28年7月更新」

「住みよい地域」をつくる一声ふれあい運動—滋賀県支部の取り組み

一声ふれあい運動とは...

少子高齢化が進行する地域で在宅高齢者等への声掛け運動を行い、安否を確認し、さらにその地域の人々と交流を深めながら、疎外感や孤立感を感じることのない、住みよいまちづくりを目指して活動する事業。
現在、長浜市余呉赤十字奉仕団と甲賀市信楽町赤十字奉仕団が同運動のモデル奉仕団に指定されている。

具体的には...

- ▶定期的在宅高齢者のお宅を訪問し、安否を確認する
- ▶道で出会ったときにも声をかけ、高齢者の様子を確認する



長浜市データ

人口総数 119,136人
65歳以上 32,160人
高齢化率 27.5%

甲賀市データ

人口総数 89,959人
65歳以上 23,551人
高齢化率 26.4%

訪問活動や声かけ運動が一般的だが、その活動方法や活動内容は滋賀県内の各奉仕団ごとに異なる。方法や内容は、各団の団員みんなで話し合い、決定する。それゆえ、この活動を継続的に進めていくにあたり、どのように活動を工夫するかは、各奉仕団の団員に委ねられている。
また、一声ふれあい運動推進事業の助成金として、一団につき、2年間で50,000円交付される。

心温まる 配食サービス

岐阜県大垣市赤十字奉仕団興文分団

活動のはじまり

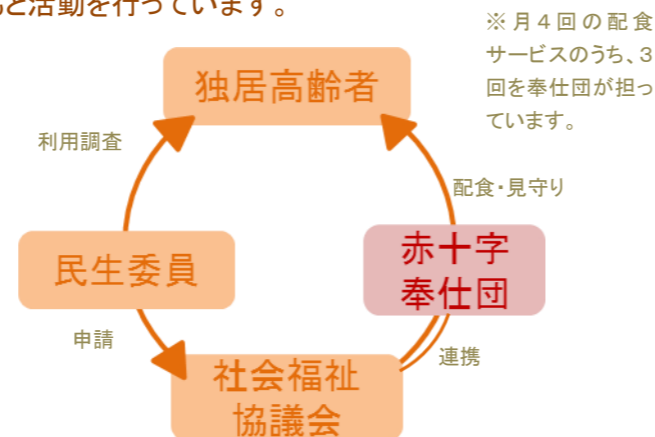
昭和55年に大垣市社会福祉協議会の食事サービス事業のモデル地区として開始されました。活動当初は、月1回、1食100円でサービスを行っていました。現在は毎週木曜日に1食200円でお弁当を提供しています。65歳以上の単身世帯で食事を作ることが難しい方がサービスの対象者となっています。

平成9年には地域福祉への功績が認められ厚生大臣から感謝状が授与されました。今では、大垣市の21地区で配食サービスが実施されており、その中でも興文分団は最も長く活動を行っています。

お弁当を配達すると、自然と会話が生まれます。

【配食サービスをするにあたっての地域関係図】

大垣市興文地区では、以下のような連携のもと活動を行っています。



※月4回の配食サービスのうち、3回を奉仕団が担っています。



岐阜県大垣市赤十字奉仕団興文分団の皆さま

配食サービスの役割

配食は必ず手渡しで行われ、奉仕団員がお弁当を持っていき、配食を兼ねて安否確認も行っています。配食サービスを楽しみに、玄関で待っている方もいらっしゃいます。お弁当箱は翌日、奉仕団員が回収し、食の安全にも細心の注意を払っています。



地域の方からの温かいメッセージ。いつも感謝の言葉も添えられています。

彩りを考え盛り付けにも一工夫。

活動の感想

「配食を楽しみに待っていてくださること、地域の方が喜んでくれることが嬉しい。」また「ボランティア活動が地域の交流の場になっている。」と活動のやりがいを感じています。

「私たち自身も、いずれはサービスを受ける側になるため、元気なうちは配食サービスが続けたい。」という想いが活力になっており、高齢者支援に留まらず、地域のつながりをつくるキッカケになっています。

本日の手作りお弁当
おかずの種類も豊富。

人気メニュー

人気メニューは「炊き込みご飯」と「のっぺい汁」。具材が多く、自分で作るのが難しいという理由から人気となっています。

食事を作る際は、「うす味」「小さく」「やわらかく」を意識し調理しています。



炊き込みごはん

のっぺい汁

長浜市余呉赤十字奉仕団

余呉赤十字奉仕団では、地域の親子やお一人暮らしの高齢者を対象とした「世代間交流会」を開催しています。同交流会は、こま回しや、お手玉、紙風船など懐かしい遊びからスタート。同奉仕団の三段崎静子委員長は、「特段の司会進行などはありません。遊びから入るので、堅苦しい雰囲気にもならず、参加者の方はすぐに打ち解けあい、自然に交流が生まれます。初めて参加される方からも好評いただき、地域の輪が広がっています。」と語ります。

昔ながらの遊びの中には、滋賀県彦根市発祥の「彦根カラム」があります。この日は90歳以上の4名の方が、2時間近く彦根カラムで熱心に遊ぶ姿が見られました。カラムを楽しむために、自宅から集会所まで1時間近く歩いて歩く方もいらっしゃるほど、交流会は「地域住民をつなぐ場」として機能しています。

世代を越えて共に楽しむ



それぞれ遊びを楽しんだ後、3つのグループに分かれ、かるた大会を開催。かるたは「丹生かるた」といい、丹生小学校(現・余呉小学校)の児童が手作りしたものの。あくわ行までの同じ頭文字が複数用意されている絵札もあるので、内容をよく聞いて、とるかたらないかを判断する必要があります。昼食の時間帯になると、奉仕団員が調理したカレーと地域のボランティアの男性が朝から準備してくれた焼き芋に舌鼓をうちました。

赤ちゃんから百歳近い方まで、世代を問わず、同じ時間を共有し、楽しむことがこの活動の最大の特徴。11か月の乳児と小学生の子どもを連れて初めてサロンに参加した女性は、「学校から案内を受け取った子どもが参加したいということで、参加してみようと思った」といいます。子どもが他の子どもや奉仕団員、地域の高齢者の方と積極的に関わり楽しむ姿に、ほっとした様子でした。余呉には小学校が一つしかなく、交流会に参加する子どもは限られていますが、参加した子どもたち、また子どもたちとふれあう高齢者の表情は非常にいきいきしています。「一人暮らしの高齢者」だけを対象にするのではなく、世代を超えて共に楽しむ時間を提供することに主眼に置いた「理想のコミュニティ像」が垣間見えました。



三段崎委員長は、社会福祉協議会の職員。余呉地区を温かく見守るお母さんの役割を果たしています。

信楽町赤十字奉仕団は、一声ふれあい運動の一環で、毎年12月に葉牡丹を80歳以上の高齢者の方に配布しています。その数は246個。各対象者のお宅を奉仕団員が訪問し、世間話などをしながら、近況を把握することで、地域の高齢者の安否を確認しています。また、訪問時は対象世帯の方に安心していただけるよう、奉仕団マークが入ったエプロンの着用を忘れません。

葉牡丹を配布する活動を始めてから、4年が経過します。現在の活動を提案したのは、同奉仕団の福西美知子委員長。各世帯へ配布後に、葉牡丹が入っていた鉢を2月に回収し、代わりに地域の小学生が描いた絵やメッセージを渡すまでが一連の流れとなっています。高齢者との世代間交流を目的に、町内にある青少年赤十字に加盟する5つの小学校もこの活動に携わっています。「今の活動は、『ボランティア』という意識で行っているわけではなく、普段のあいさつの延長線上にあると考えているから継続できているのではないだろうか」と活動が継続する理由を語りました。



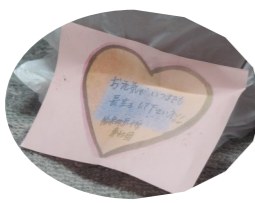
福西委員長の幼馴染の前田さんが葉牡丹の栽培に協力。お渡しする葉牡丹を無料で提供してくれます。



地域のきずなを紡ぐ葉牡丹

「活動を通してさまざまな人々と出会い、話すことが楽しいんですね。自分が今後してもらいたいと思っていることをしているだけなんですけれど。」—福西委員長が笑顔で気さくに声掛けをする裏側には、見えない努力があります。奉仕団活動の他に、甲賀市の傾聴活動にもボランティアとして参加。傾聴に関連した研修を受講しているほか、実際の活動を通じて磨かれたスキルが役立っています。「対象者が興味を持っていることを聞いて、そこから、相手の話を引き出すとうまくコミュニケーションが取れるんです」。このような対象者への小さな配慮の積み重ねが活動対象者との距離を縮めるコツだといえます。

福西委員長を筆頭に、奉仕団員の活動への熱い思いが、地域住民の絆を確固たるものになっています。



葉牡丹には「お元気でいつまでも長生きしてね」のメッセージも添えています。

甲賀市信楽町赤十字奉仕団

編集後記

今回の取材では、実際の活動に私も参加でき、本当に楽しかったです。世代間交流への参加やお宅訪問に同行する中で、地域の結束力を感じることができました。

私は、今回の広報誌発行で、編集委員の任期を終えます。取材、そして、編集作業を通して、多くの人と出会い、多くの学びを得ました。取材に協力してくださった方、編集に協力してくださった方、そして何より、私たちが作った広報誌を最後まで読んでくださった方に感謝の気持ちでいっぱいです！（明治学院大学 渡辺真帆）

配食サービスを通して単身世帯の高齢者との交流や安否確認、活動者自らの地域交流にもつながっていることから、配食サービス活動が地域活性化にも強く関係していることを現場から感じることができました。

RCV編集委員をキッカケに各地域で行われている活動にも目を向ける機会が多くなりました。つい自分たちの活動ばかりに集中してしまいがちですが、他のボランティア活動にも目を向けることが自分達の活動をより活発的なものにと感じました。完成したRCVを通して、多くの方に地域の活動を知ってもらえたら幸いです。（明治学院大学 蓼原彩香）



編集委員の渡辺さん(左)と蓼原さん(右)

日本赤十字社は、「私たちは、忘れない。」キャンペーンを展開しています。



私たちは、忘れない★
Forever remembered★

阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震災害……私たちはこれまで、多くの災害に見舞われてきました。自然災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。大人も子どもも、ひとしくすべての人が、あるとき突然、災害に遭う可能性があります。

災害に遭遇したときに、自分の命を守るにはどうしたらよいのか。そして、周りの人々と助け合いながら生き抜いていくにはどうすればよいのか。大切なのは、自ら考え、そして正しく行動する力を、日常的に育てていくことです。

東日本大震災のみに限らず、すべての大規模災害の記憶を風化させず、過酷な経験を未来で生き抜く力に変えていく。社会全体の防災力・減災力を育むためのプロジェクトを、「私たちは、忘れない。」を合言葉に、推進していきたいと考えております。

【キャンペーン特設サイト】<http://www.wasurenai.jrc.or.jp/>

赤十字ボランティアへの参加、登録についてのお問い合わせ

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

ホームページから

日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp/volunteer>



FacebookやTwitterでも逐次情報を更新しています！



○編集・発行

事業局 パートナーシップ推進部 ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課

電話：03-3437-7083(ダイヤルイン) ホームページ：<http://www.jrc.or.jp>